

5. 地域でできること

1 認知症の人への支援

1 1 こころのバリアフリーと「人間杖」が必要です

認知症の人は、自分の障がいを補う「杖」の使い方を覚えることができません。「杖」のつもりでメモを書いてもうまく思い出せず、何のことか分からなくなります。認知症の人を支えるためには、障がいを理解し、さりげなく援助できる「人間杖」が必要です。

地域のあらゆるところに、温かく見守ってくれる人が増えれば、認知症の人でも外出をしやすく、自分でやれることも増えてきます。

2 2 関わる人の心がまえ～さりげなく自然に関わるのが一番～

誰でも自分や家族が認知症になることがあります。

健康な人の心情が様々であるのと同じように、認知症の人の心情も様々です。「認知症の人」がいるのではなく、その人が認知症という病気になっただけです。私たちがすべきことは、認知症の障がいを補いながら、「さりげなく」、「自然に」、それが一番です。



2 地域で声かけ ～認知症(疑いを含む)の人が困っている様子が見えたら～

